

### 家政教育における健康教育ネットワークの構築 ○池田 洋子 桜の聖母短期大学

この研究は女子学生の健康管理能力をいかに高めるかが目的である。本学では高齢期を健康に過ごすためには若い時からの健康管理が重要であると考え、骨粗鬆症予防を中心とした健康管理教育を学内で展開している。具体的には健康管理室と連携して英語学科及び生活科学科の全学生の骨密度を測定し、その場で健康指導を行い、自分の健康管理に対する意識化を図っている。

21世紀の少子・超高齢社会を健康で活力あるものとしていくために厚生省は、国民の健康づくり運動として2010年までの長期的な健康づくり計画「健康日本21」を推進している。とくに地域レベルの健康づくり運動を盛り上げるために厚生省はその推進者となるヘルスサポーターを2001年から3年間で100万人養成する方針を決めた。

本学では若い人に対する健康管理教育は学校側の支援だけでなく、地域社会との連携が重要であると考え、2001年4月から桜の聖母短期大学、福島市及び福島市食生活改善推進協議会は地域の健康づくり運動「ヘルスプロモーション事業」を展開し、地域の健康増進を目指している。今年度は「骨骨（コツコツ）ダイエット教室」、特別講演会「地域における骨粗鬆症予防」及びヘルスサポーター養成などを実施した。健康教育ネットワーク構築の成果は①学生の健康管理に対する意識化の深まり②教授する場の拡大③地域の健康増進指導者の育成④地域社会との関係強化などである。今後の課題として学内では①英語学科学生に対する意識化、地域では②若い地域住民に対する啓発活動があげられる。